

令和6年度第1回小牧市在宅医療・介護連携推進協議会 議事録

日 時	令和7年2月20日(木) 午後3時30分～午後4時45分
場 所	小牧市役所 本庁舎3階 301会議室
出席者	<p><b>【出席委員】(名簿順)</b></p> <p>浅井 真嗣 小牧市医師会 担当理事  渡邊 紘章 在宅緩和ケアあすなろ医院 院長  加藤 益丈 小牧市歯科医師会 副会長  石田 幸大 小牧市薬剤師会 幹事  芥川 篤史 医療法人純正会 小牧第一病院 院長  望月 能成 小牧市民病院 副院長兼外科統括部長医師患者支援センター長  小松 智恵 小牧市民病院 副看護局長兼患者支援センター入退院支援室長  大野 充敏 小牧市介護支援専門員連絡協議会 副会長  深萱 絵美 小牧市介護保険サービス事業者連絡会 訪問看護・訪問リハビリ部会幹事  河内 宏一 小牧市リハビリテーション連絡会  増井 恒夫 愛知県春日井保健所 所長  田中 秀治 小牧市社会福祉協議会 事務局次長兼在宅福祉課長  金田 泰丈 味岡地域包括支援センター 管理者  尾形 泰史 小牧市消防本部 消防署南支署長</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>伊藤 俊幸 福祉部 部長  山本 格史 福祉部 次長  平野 淳也 福祉部 地域包括ケア推進課 課長  水野 清志 福祉部 介護保険課 課長  丹羽 隆人 福祉部 地域包括ケア推進課福祉政策係 係長  上野 夏海 福祉部 地域包括ケア推進課福祉政策係  磯村 千鶴子 小牧市在宅医療・介護連携サポートセンター  加藤 三紀子 小牧市在宅医療・介護連携サポートセンター</p>
傍聴者	1名
配付資料	<p>次第</p> <p>資料1：小牧市在宅医療・介護連携推進協議会設置要綱  資料2：小牧市在宅医療・介護連携推進事業報告  資料3：小牧市在宅医療・介護連携推進事業進捗状況報告シート  資料4：令和7年度小牧市在宅医療・介護連携推進事業計画案</p>
当日配付資料	<p>配席表  委員名簿</p>
<p><b>1. 開会</b>  <b>事務局)</b></p> <p>それでは定刻になりましたのでただいまから始めさせていただきます。  本日はご多用の中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。本協議会の進行を務めさせていただきます、地域包括ケア推進課 福祉政策係の丹羽でございます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。</p>	

まず、会議に先立ちまして配付資料の確認をさせていただきます。事前にお配りをさせていただきましたものとしまして、本日の会議の次第、資料1として小牧市在宅医療・介護連携推進協議会設置要綱、資料2として小牧市在宅医療・介護連携推進事業報告、資料3として小牧市在宅医療・介護連携推進事業進捗状況報告シート、資料4として令和7年度小牧市在宅医療・介護連携推進事業計画案となります。当日資料としまして、配席表、委員名簿を配布させていただきました。不足等ございましたら、申し出をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

また本日、会議録作成のために録音をさせていただきますので、あらかじめご承知おきいただければと思いますよろしくお願いいたします。

それでは早速でございますが、令和6年度第1回小牧市在宅医療・介護連携推進協議会を開催させていただきます。

まず、本日の出席についてです。事前に渡邊委員から遅れてのご出席の連絡をいただいております。現在、委員14名中13名の方にご出席いただいております。出席委員が過半数に達しておりますので本会議は成立していることをご報告させていただきます。

また、本日は1名の方から傍聴希望がございましたので、併せてご報告させていただきます。

次に、委員の就任につきまして、今年度は委員の交代がありましたがご承諾をいただきまして誠にありがとうございます。本来でありましたら、おひとりずつ委嘱状をお渡しさせていただくところでございますが、大変失礼ながら、事前の送付に代えさせていただきましたので、よろしくお願い申し上げます。

なお、継続の委員もみえますが、今年度本協議会の委員として新たに委嘱をさせていただいた方を紹介させていただきます。小牧市民病院より望月委員、小牧市介護保険サービス事業者連絡会より深萱委員、味噌地域包括ふれあいセンター岩崎あいの郷より金田委員、小牧市消防本部より尾形委員、以上4名です。

それでは会議の開催に先立ちまして福祉部次長の山本よりごあいさつを申し上げます。

## (1) あいさつ

### 山本福祉部次長)

本来であれば福祉部長からご挨拶を申し上げるところでございますが、前の会議が長引いております。後ほど参りますのでよろしくお願いいたします。

本日はお忙しい中、令和6年度第1回小牧市在宅医療・介護連携推進協議会にご出席いただきましてありがとうございます。

さて、本市では、地域包括ケアシステムを充実させ、地域共生社会を実現するため、小牧市地域包括ケア推進計画を策定いたしました。この計画は、地域福祉計画、地域福祉活動計画、老人福祉計画、介護保険事業計画の4つの計画を一体的に策定したものであり、今年度からが計画期間となります。

この新しい計画におきましても、在宅医療・介護の提供や連携体制の強化を基本方針の一つとしており、今後も積極的に取り組んでいく必要がある事業であります。在宅医療や介護の事業者の方々、関係機関の方々、行政それぞれができることをつなげていくことで、誰もが住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、本協議会でのご議論を踏まえ、取組みを推進していきたいと考えておりますので、今後ともみなさまのご支援とご協力をお願いいたしまして、開催の挨拶とさせていただきます。

## 2. 議題

## (1) 会長及び副会長の選出について

### 事務局)

それでは議事に入らせていただきます。会長及び副会長の選任につきましては、小牧市在宅医療・介護連携推進協議会設置要綱第4条の規定により、委員の互選により選出をしていただくこととなります。どなたか推薦等ありましたらお願いをいたします。

### 田中委員)

会長には、在宅診療に実際に携わり、小牧市医師会の在宅医療推進委員会の長でもありません、浅井委員にお願いしたいと思います。

副会長には、医療・介護の連携という意味で、介護現場で活躍されていらっしゃる大野委員にお願いしたいと思います

### 事務局)

ただいま田中委員から、会長に浅井委員、副会長に大野委員との声がありました。いかがでしょうか。

### 【異議なしの声】

### 事務局)

それでは会長を浅井委員、副会長を大野委員とすることと決しました。浅井会長、大野副会長、前の会長・副会長席にご移動をお願いいたします。

それでは浅井会長からごあいさつをいただきたいと思います。

### 浅井会長)

近年、年に1回開催されている本協議会ですが、協議会の在り方について考えております。

今後要介護・要支援の方々が増加していくのは間違いないので、その中で医療と介護の連携は中心的な役割を持っていくものであり、非常に大切であります。

そのため、本日の協議会は充実したものにしたいと思っております。本日はよろしく願いいたします。

### 事務局)

浅井会長ありがとうございました。

それでは、以後の議事進行は浅井会長にお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

## (2) 小牧市在宅医療・介護連携推進事業の報告

### 浅井会長)

事務局からご説明をお願いします。

### 事務局)

それでは議題(2)の小牧市在宅医療・介護連携推進事業の報告について地域包括ケア推進課の平野からご説明をさせていただきます。本日お配りいたしました資料2の2ページをご覧くださいと思います。まず、本事業における事業の目的は傍線部で示すとおり、「医療・介護関係者との協働・連携を円滑に進めることで、包括的かつ継続的な在宅医療・介護の提供を推進する」とされております。本報告では小牧市における在宅医療・介護連携推進事業の取り組み等について報告をさせていただきます。なお、令和5年度と今年度12月までの実績についても併せてご報告させていただきます。

では、主な部分のみ抜粋して報告させていただきます。

まず、(ア)地域の医療・介護の資源の把握につきまして、4ページをご覧ください。令和5年度末時点の施設数は324施設となっており、令和6年度12月末時点の施設数は335施設となっております。

続きまして6ページをご覧ください。同じく（ア）地域の医療・介護の資源の把握ですが、こちらはこまきハートフルパーキング事業の利用実績を示しております。令和5年度の利用実績は161件、令和6年度の12月末までの実績は147件となっております。

なお、令和6年度の駐車場は令和5年度の76台から3台増えまして、79台となっております。

続きまして（ウ）切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進としまして、9ページをご覧ください。こちらは小牧市在宅医療・介護連携サポートセンターが実施している副科紹介支援の実績になります。令和5年度は1件、令和6年度12月末までで2件となっております。

続きまして、スライドの10ページをお願いします。こちらは（オ）在宅医療・介護関係者に関する相談支援といたしまして小牧市在宅医療・介護連携サポートセンターが受けた相談件数の実績を掲載しております。令和5年度は28件、令和6年度12月末時点では28件の実績となっております。

続きまして、（キ）地域住民への普及・啓発につきまして、12ページをご覧ください。在宅医療・介護市民講演会につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響で開催できておりませんでした。令和5年度に4年ぶりに開催されました。また、今年度につきましては2月8日に開催され、196名の方の参加がありました。

また、わた史ノートの出前講座につきましては、令和5年度には1回、令和6年度は2回開催しております。

続きまして、（カ）医療・介護関係者の研修につきまして、スライドの15ページ、16ページのとおりです。医療・介護勉強会につきましては、今年度は1回ごとに別のテーマを取り上げるのではなく、糖尿病につきまして、病態の基礎、食事について、治療薬の種類など、3回のシリーズで開催いたしまして、医療職から介護職まで幅広い職種の方にご参加いただきました。

続きまして、在宅医療・介護連携に関する市町村との連携につきましては、現在、都道府県主体の役割とされております。参考といたしまして小牧市が関係する部分を記載しておりますので、17ページから19ページにつきましてはご一読ください。

以上簡単ではございますが、本市における在宅医療・介護連携推進事業の報告とさせていただきます。

#### **浅井会長)**

ご報告ありがとうございます。事務局から説明がありましたが、何かご質問等がありますか。

特にないようでしたので、私から1点申し上げます。

13ページについて一応確認なのですが、介護保険申請や更新の際に、事業の説明や念書のような同意は現時点でいただいているということでしょうか。

#### **事務局)**

介護認定が出た後でサービスを使っていく際に、その方の支援者、所謂関係機関の方々のつながるくん連絡帳で情報連携をするにあたっての承諾をいただいているか。ということでしょうか。

#### **浅井会長)**

私も曖昧な記憶で申し訳ないですが、申請する際か介護認定が下りた時に、介護保険課にて同意をいただくという話になっていたと思うのですが、そのような解釈でよろしいでしょうか。

#### **金田委員)**

介護保険の申請の際に、同意の欄がありますので、申請時にご説明をして、それを含めて同意をいただいた方にサインをいただいて申請をしています。それが無い方は、別紙で情報共有の同意をいただいてこまきつながるくん連絡帳の利用につないでいるところです。

**浅井会長)**

更新の際も基本的に行っているということによろしいか。

**金田委員)**

申請書に記載があるので、そこで説明をしております。

**浅井会長)**

拒否される方はいらっしゃいますか。

**金田委員)**

経験したことはありません。皆さんご同意いただいています。

**浅井会長)**

他に、この議題について何かご質問等がありますか。

**渡邊委員)**

ハートフルパーキング事業についてお聞きします。この事業は大事な事業であると考えています。介護系サービスの利用者の方はヘルパーの駐車場の問題でケアのタイミングが難しくなってしまうという経験があります。あまり台数が増えていないように感じますが、継続的に台数を増やす取組みは行っているのでしょうか。

増やして欲しいという要望を市に伝えると、市から対象の駐車場管理者に交渉を行うという事はお聞きしていますが、県営住宅や市の管轄ではない場所に高齢者の方が多く住まれているという現実があり、そういった場所の駐車場の利用は、その住宅の管理人にかなり左右されてしまっているのが現状です。

市としてのハートフルパーキングを増やす取組みと、県営住宅などの市を超えたところへのアプローチを行っているのでしょうか。

**事務局)**

ハートフルパーキング事業につきましては、継続的にホームページの方で募集をかけております。

また個別で駐車場の要望がありましたら、交渉等をしております。また、県営住宅等につきましては、県営住宅等を管理するところに調整を図っていきたいと考えております。

**渡邊委員)**

提供する意思があれば申し出ていただくという形の募集であると、現実的には募集を見ないことが多いと思いますので、広報などで定期的に募集をかけるなど、募集方法に少し工夫をしていただけると良いのではないのでしょうか。

**浅井会長)**

他に、この議題について何かご質問等がありますか。

特にないようですので、先に進めさせていただきます。

### **(3) 小牧市在宅医療・介護連携推進事業進捗状況報告**

**浅井会長)**

事務局から説明をお願いします。

**事務局)**

それでは議題 (3) 小牧市在宅医療介護連携推進事業進捗状況報告について説明させていただきます。

本議題につきましては、協議会の開催に先立ち、委員の皆さまにお尋ねした内容を資料3に

まとめております。委員の皆様におかれましては、事業ごとに報告をお願いいたします。

#### **浅井会長)**

それでは、(ア)地域の医療・介護の資源の把握について、(1)より資料に記載されている内容について報告をお願いします。

#### **加藤委員)**

前年度と比較しまして活動に大きな変化はございません。ただ、実際に訪問するにあたり、歯科衛生士の人員の不足が問題となっており、実施状況が前向きに進めていないというのが正直なところであります。

様々な研修にも参加しておりますが、歯科医師会の会員全員が十分に研修に参加できる状況にはないということです。誰もが参加できるような仕組みづくりを現在進めているところであります。

#### **石田委員)**

現状としまして私の体感ではありますが、在宅の依頼は増加しているように感じております。

ご家族が薬局に直接薬を取りに来られるという話も多々伺っておりますので、私たち薬剤師が在宅医療においてどのような活躍ができるのかをもっと知っていただく必要があるということが課題だと考えております。

また、他の職種の方々に関しましても、薬剤師が何をできるのかということを知っていただく必要があると思いますので、サービス担当者会議等の参加に関しましても積極的に行っていけるようにしていきたいと思っております。

また未実施店舗も中にはあるかと思いますが、原因として人員不足や業務過多が考えられます。近隣薬局の受け入れが難しい場合などは別の薬局にてスムーズな対応ができるよう、薬局誘導にならない程度の対応ができると良いと考えています。

#### **深萱委員)**

昨年度同様小牧市介護保険サービス事業者連絡会では、介護展、研修等、市民の皆様にも介護について学ぶ講座を実施し、活動として大きな変化はありませんでした。

ただ、介護展の開催に先立ち、準備から終了まで3日間、人手を取られるというところを各事業所は問題だと考えています。

そのため、次年度は介護展を1日にまとめるように考えて動いているところです。

研修会に関しまして、参加はしたいけれど大人数が職場から抜けられないとか、時間の調整が難しいということがあります。今後はオンラインや期間限定配信というのを取り入れていこうという話が出ております。

#### **金田委員)**

地域包括支援センター主催の事例検討会にて、小規模多機能居宅介護事業所の事例をもとにケアマネジャー、地域包括支援センターを含めて意見交換をしました。

地域包括支援センターとしましては、社会福祉士による虐待防止研修の実施、認知症地域支援推進員によるサポーター養成講座を事業所向け、医療機関向けに行っています。

#### **大野委員)**

7月に障害福祉サービスなど多制度について理解するための研修会の企画、12月には複数の問題が混在する方への支援について学ぶ研修を企画いたしました。

研修からも具体的な支援の中では情報交換や相互の役割を確認することは必要であるということがはっきりとしているため、ICTを含めあらゆる面で連携する仕組みを検討する必要があると思います。

#### **浅井会長)**

ご報告ありがとうございます。何かご質問等がありますか。

特にないようですので、先に進めさせていただきます。

続きまして、(イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討について、(1) より資料に記載されている内容について報告をお願いします。

#### **金田委員)**

ケアマネジメント支援会議を行いました。重層的支援体制整備事業における、多機関協働事業であるこまきつながらる会議が来年度から本格稼働する前に、医療・介護、その他関係機関で意見交換をし、より良い事業になるようにということで、ケース検討を踏まえて行いました。

その他、多職種カンファレンスの自立支援に地域包括支援センターとして、事例提供をしております。

個別ケースの対応としては、訪問診療、訪問看護、薬局との連携が増えている実感があります。

入退院においては、医療と介護の連携シートを有効に活用し、適切な情報共有ができるように取り組んでいるところです。

#### **浅井会長)**

ご報告ありがとうございます。何かご質問等がありますか。

特にないようですので、先に進めさせていただきます。

続きまして、(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築について、(1) より資料に記載されている内容について報告をお願いします。

#### **大野委員)**

昨年と同様に、訪問看護とケアマネジャーの連携を考えるとということで研修会を行いました。今回のように多職種が一緒になり、1人の患者さんの支援計画を作る研修というのは、お互いの取り組みがよく分かり、実際のチームケアを体感できたと思っております。

今後も同様の研修を企画していきたいと思っております。

#### **浅井会長)**

ご報告ありがとうございます。何かご質問等がありますか。

特にないようでしたので、私から1点申し上げます。

ここで申し上げるのもなんですが、サポートセンターにお聞きします。

先ほどの副科紹介支援について、最近は副科と主科の連携もありますし、副科と限定せずに考えていくのはいかがでしょうか。

例えば、歯科なども結局同じようなことをやっているかと思っておりますので、対象副科が現在4つとなっていますが、今後は医科と歯科の連携等も入れてしまえば良いかと思っております。

一度検討していただきたいです。

#### **サポートセンター)**

検討させていただきます。

#### **浅井会長)**

他に何かご質問等がありますか。

特にないようですので、先に進めさせていただきます。

続きまして、(エ) 医療・介護関係者の情報共有の支援について、(1) より資料に記載されている内容について報告をお願いします。

#### **田中委員)**

病院とケアマネジャーの連携については、県の3年間の事業で入退院の連携のルールづくりという部分が出されました。それにつきましては、カルテに名刺を挟んだり、連携シートをどのタイミングで情報共有していくかということでしたが、これは従来行っている医療と介

護の連携シートで行ってきたということで、病院とより密に連携をとりながら進めています。

一つお伝えしたいところは、2月4日に小牧市民病院の入退院支援リンクナース会議に出席させていただきました。市民病院の中では入退院連携を病棟としっかり行っていくということでこちらの会議を開催しておられます。

そういったところで、ケアマネジャーがどのような情報を市民病院の方に入れていくのか、病院はどのようにケアマネジャーと連携をとるのかということが議題になりました。特に、病棟の中での情報を在宅の方へ結びつけるというところでは、連絡の取り方など課題が大きいということがはっきりいたしました。誰がどのタイミングで何を伝えるのかというところは、これからまた病院と話し合いをしていく必要があると考えております。

#### **小松委員)**

先ほど田中委員がお話しされたように、医療と介護の連携シートを非常に活用しております、年々この件数が増えているということは、認定された方が多く入院されているということがよくわかっております。

さらに、介護支援等連携指導件数では、ケアマネジャーと退院前に相談させていただくのですが、こちらも件数が増加しているということで、やはりかなり連携をとらないと対応が難しいというのがわかっております。

また、本来愛知県の入退調整支援事業の方では、ケアマネジャーからの連絡が3日以内ということですが、実際はそれより早く来るケースも多くあります。

これはうまくご家族等に連絡がいき、早めにケアマネジャーに連絡がいき、病院にまた連絡が来るという形になっており、これはすごくいい動きであると思っております。

また、一応この入退調整支援事業をやっておりますので、一度今年度中に評価ができると思いましたが、評価がまだできておりません。

さらに、現在入院支援としてPFMというものを行っておりますが、定期入院の場合は、入院する前に情報を収集する機会がありますので、本来この段階で、医療と介護の連携シートがあると問題のある患者さんに早期に対応ができますので、当院としてはそのようなことも今後進めていきたいと思っております。

#### **田中委員)**

ICTについては昨年同様、ケアマネジャーと訪問看護の合同研修の中で、ICT活用についての意見交換をしています。

その中で、こまきつながるくん連絡帳については、メールが来てそれを開けて、中を見るところで、手間がかかって非常に活用しにくいという意見がありました。

また、医師や医療関係者は、メディカルケアステーションを結構活用しておられるということで、ICTについてどのように今後活用していくのかというところの課題は大きいと思います。

特に、市としてこまきつながるくん連絡帳を推奨しておられるので、どのような使い方をしていくのか、どれぐらい使っているのかという実態調査を行いながら、システムの改善の声の集約をしたり、多様な活用方法という部分がどのようなところにあるのか、ということを検討してはどうかと考えております。

#### **浅井会長)**

ご報告ありがとうございます。何かご質問等がありますか。

#### **河内委員)**

病院とケアマネジャーの連携という部分で話がありましたが、その病院から転院する際の病院と病院との連携という部分で、情報が欲しいという意見がリハビリのほうでかなり上がってございました。

最初にケアマネジャー等から入院した際に情報が入ってきます。次に回復期や第一病院などもそうですが、病院から病院へ転院した時に、この介護系の情報が入ってきません。その病院での治療やリハビリの情報は入ってきますが、それ以前の生活状況などの介護系の情報というのが入ってこないことが多いので、この病院間同士の連携のところで介護系の情報という部分はこれから充足させていきたいと思いますが、現在の状況をお聞きしたいです。

**小松委員)**

病院間ですと、医療と介護の連携シートが確かにその次の病院に行くのかということ、いかな場合も少しあるのかと思いますが、基本的には来たものに関しては返答するということに対応しております。

転院ですと、当然ソーシャルワーカーか看護師が関わりますので、ある程度しっかりとした対応が取れているかと思いますが、例えば当院も、次の病院にシートを送った場合にそこから先に繋がるかというのはわからないものですから、確かにそこは今後、転院でも注意して話を進めていくべきなのかなと思います。

**浅井会長)**

他に、何かご質問等がありますか。

**渡邊委員)**

今の質問とも関連するのですが、市民病院側は連携医療機関に関しては、カルテの開示をしてくださっていて、リハビリの記録についても開示がされています。例えば私たち在宅医療機関にとっては、市民病院のリハビリ情報を見るのは割とハードルが低いと思うので、その辺の情報が、医療と介護の連携シートに関しても、こまきつながるくん連絡帳等を利用して行くのであれば FAX で送ってしまうと紙媒体の情報だけになるので、ICT 活用という意味では、そういうところに ICT を利用してデータを上げることで、皆がそこで見えるような形を模索していただきたいと思っているのが一つあります。

もう一つは、病院側の開示情報の中で開示してくださっているのが、医療機関としては大体流れが把握できて、退院に関する準備も病院の状況を把握しながらできるのですが、退院支援の情報に関しては、恐らくシステム的な問題かもしれないのですが、一部見えないようになっています。

フォーマットのようにになっているものは見えないものが多く、病棟看護師の方の記録や医師記録で推測をするなどしており、緩和ケアチームのような専門チームの記録に関しましても、うまく見えない状況になっており、少し把握しづらいと思っております。その辺りは今かなり開示してくださっているのでも利用しやすいのでも、開示の範囲というか、開示のテクニックなのかもしれませんがそのようなところも検討していただきたいと思っています。

**浅井会長)**

渡邊委員が言われたことを私も本当にその通りだと思っています。

この ICT です、市民病院さんにしても第一病院さんでもですけども、我々のように訪問を行っている方は大体 ICT を使っているやっているので、病院として ICT を使っているいろいろなことに参加していくということは考えていらっしゃるのでしょうか。

**小松委員)**

その辺りはトップ案件になるかと思いますが、当院のいろいろな問題、経営的な問題や電子カルテが今後変化していく問題ですとかで、中々どうなっていくかということは私の意見では言えないものがあるのですが、一応 ICT を使っていくという目標が出ておりますのでやっていきたいと考えております。

**浅井会長)**

何度も同じ回答をいただいております、難しいと思うのですが何か突破口が必要だと思います。芥川委員はいかがでしょう。

#### 芥川委員)

具体的な導入というのはまだ案には上がってきておりません。

一応外来等でこまきつなぐるくん連絡帳が見える環境などというのは検討にはあったのですが、なかなか日常診療でそこまで手が回らないというのが現場の意見として多いかと思えます。

#### 浅井会長)

そのような回答になるのも分かります。しかし、我々も診療をしながら入れていますので、絶対できないということはないと私は思っていて、それぞれ特に医師が動かないとどうにもならないと思います。他もやることがありますし、それはもう十分わかるつもりですけども、ただやはり連携をとってやっていこうという時に、病院だけが参加しないというのはいかがでしょう。これは病院に限らず施設系もそうで、デイサービスやショートステイもそうなのですが、少しずつ参加をしてくださっている流れとしては楽なのですが、あとはケアマネジャーも、先ほど田中委員が言われたように見るのが大変などあるかと思いますが、気があるかというところで、やはりもう少し強く頑としてやっていく方向性を示して欲しいと思っています。

あといろいろな難しさもあると思います。先ほど出てきたメディカルケアステーションなどもありますし。私は両方使いながらやっているのですが。

こまきつなぐるくん連絡帳については、Wi-Fi 下では繋がるのですが、モバイル通信時に個人のスマホだと11月頃から繋がらなくなってしまっています。

そういう状況で、まずどうして繋がらないのかということをお会社にしっかり対応していただきたいです。セキュリティの問題ということであれば、それはそれで仕方ない面があるかと思いますが、今のところそれも分かっていないということですので早急に対応をお願いしたい。

あともう1点、ICTということで介護保険が出た時に、保険証等の類のものはケアマネジャーから載せていただけないでしょうか。毎回写真を撮って同じことばかりやっているのですが、折角 ICT がありますので、是非ケアマネジャーにとと思いますが、大変でもまずはここだけは載せるということをお願いしたいと考えています。いかがでしょう。

#### 望月委員)

1点よろしいでしょうか。

カルテ等を含めた DX 化なのですが、病院内でも度々話が出ています。

必ず問題になるのは、会長がおっしゃる通り、セキュリティを非常に問題視する方が多いというのと、費用の問題があります。

電子カルテも数年後に新しいものに入れ替えるにあたり、今のカルテを更新するか、別のカルテにするかということで問題が生じています。ただ、そのタイミングで、ある程度 DX 化を進めようということをやっておりますので、少しでも皆さんの意向に沿った形で DX 化を進めていかなければいけないと思っています。

あと個別の案件で、当院の電子カルテを外から見るシステムはできていると思うのですが、確かに制限されている部分があり、チーム医療における、例えばテンプレートであるとかそういうものがちょっと見えないと渡邊委員がおっしゃっていましたが、そういうものは言ういただければ開示できると思います。病診連携の中で先生方にカルテ見ていただいているのですが、どうしても制限をかけているところがあると思いますので、そこら辺については、改善できる可能性があります。

全体のDX化は進めていますが、費用とセキュリティが必ず問題になって、なかなか進まないのが現状です。少しずつ進めていきたいと私は思っています。

今日の意見を院内に一度持ち帰って、こういった意見が強く出ているということで、早急に進めたいと私自身思っておりますので、ご理解いただけたらありがたいと思っております。

#### **大野委員)**

ケアマネジャーの方で言いますと、私と田中委員でケアマネの会があるごとに、メンバーの皆さんにお願いするということは行っているのですが、やはり先ほど望月委員からもございましたように、セキュリティの問題で法人としてうちは参加できないと、お断りになるケースも現実ありますので、それ以上どうするかというところは、また、これからこうすべきだということがルールとして決まればやっつけられるのではと思います。

我々としてはぜひ参加して欲しいとお願いする、というところで止まっているのが現状でございます。

#### **浅井会長)**

少なくとも、すでにこまきつながるくん連絡帳に参加しているところは出来るはずですよ。ね。

保険証の写しの類とサービス提供表の一部が我々のところまで回ってこないの、いつデイサービスに行って、いつヘルパーや看護が入っているかというのが一部はいただけるのですが、我々が訪問に伺った際にデイサービスなどに行ってもらえることもありますので、簡単なもので良いのでそこからお願いしたいと思っております。

#### **田中委員)**

現場のケアマネジャーの声として、先ほど大野委員が言ったように、ケアマネジャーがこまきつながるくん連絡帳で繋がろうとしても、繋がっていない事業所が多いということがあり、これは結構全体的な問題かなというふうに思います。

いろいろなサービス、医療介護を含めての事業所が、入っていかないとこまきつながるくん連絡帳が機能していかないので、もう一度こまきつながるくん連絡帳の活用を小牧市として推奨していくということを強く言うことも必要だと感じています。

#### **深萱委員)**

訪問看護からもこのような声は上がっているのですが、やはり病院の電子カルテや先生方のシステムもそうなのですが、看護や介護もソフトを使って入力をしています。

ただそれはこまきつながるくん連絡帳と連携はしてないので、先生方に報告しようと思ったら、また同じことを入力し直さなければいけないというのが手間であるというのが現場の声です。

なので、こまきつながるくん連絡帳の会社とそれぞれの会社があると思うのですが、そこが何とか連携をして、ボタン一つで飛ばしたい情報を飛ばすことができれば利用率が上がると思います。

#### **浅井会長)**

会社の関連やセキュリティの問題で難しいとは思いますが、深萱委員のおっしゃる通りで、その辺が解決していくと良いのかと思います。

とにかく少しずつ進めていくしかないと思いますので、ご協力お願いします。

他に何かご質問等がありますか。

特にないようですので、先に進めさせていただきます。

続きまして、(オ)在宅医療・介護連携に関する相談支援について、(1)より資料に記載されている内容について報告をお願いします。

#### **金田委員)**

小牧市在宅医療・介護連携サポートセンター会議、地域包括ケア推進担当管理者会、地域包括支援センターの各部会へ出席することで情報共有等ができています。

医療とケアマネの連携一覧が更新され、こまきつながるくん連絡帳から各事業所に活用されているというところがあります。

サポートセンターへ繋がっていく相談件数はあまり多くありませんが、問い合わせに関して素早く回答いただいておりますので、情報提供等で助かっております。

また、サポートセンターと味岡地域包括支援センターが月1回、老人福祉センターの田島の郷で相談会をしています。ご来場される方のご相談を1時間程度ですがお聞きしており、良い機会になっております。

#### **田中委員)**

地域包括支援センターの方は金田委員におっしゃっていただいたので、私の方から支え合い推進員のサロンでの出張相談という部分をお伝えしたいと思います。

地域の支え合いというところで地域支え合い推進員がサロン訪問を行っているのですが、今年度も4月から12月までで185件の相談がありました。

具体的に専門職へ繋がったという部分については13件で、昨年度よりも気軽に相談をするという一つの場が、住民に身近なサロンにできてきたということはすごく大きなことだと思っています。

特に今見ていると、医療とか介護の情報に漏れていく人は結構多いと思いますので、相談の窓口をできるだけ住民の身近なところで見える化したり、声をかけられるような体制が必要だと思っています。特に今年度から重層的支援体制整備事業の方で、市がアウトリーチ事業ということで着手していくことになっていきますので、来年度本格稼働していく中では、引きこもりやそういった方と同時に、医療情報、介護情報に漏れていくような人たちに対しても、どうアクションかけていくかというのは検討の一つだと思っています。

#### **金田委員)**

地域包括支援センターはアウトリーチ、訪問するのが主な仕事になっておりますので、訪問先で受診先はどこが良いか、認知症の検査はどこに行ったら良いのかという相談がよくありますので、適時医療機関への繋ぎをしているところです。

また私ども地域包括支援センターも、地域の身近なところということで、出張相談会を各所で行っています。スーパーや、今は移動販売がありますので、そのタイミングに合わせて出向いて相談会をしています。

ただやはり相談目的で来る方ではない方が多いので、全く相談がない時もあります。

人の目を引くように開催方法を工夫するとか、そういったことで継続していきたいと考えています。

#### **浅井会長)**

ご報告ありがとうございます。何かご質問等がありますか。

特にないようですので、先に進めさせていただきます。

続きまして、(カ)医療・介護関係者の研修について、(1)より資料に記載されている内容について報告をお願いします。

#### **深萱委員)**

令和6年度も小牧市介護支援専門員連絡協議会が主催で開催され、訪問看護とケアマネの連携を考えるということで参加させていただきました。

また、小牧市介護保険サービス事業者連絡会としては、部会単位で今まで研修を行ってきたのですが、今回から2部会ずつでやっていくということで、訪問看護はチャットGPTについて研修をしています。

やはりこれも参加率が低いというところが問題点に上がっているのです、また今後、どうしたら参加率が上がるかということを考えながら運営していきます。

#### **大野委員)**

ケアマネの会も今年度、医療介護の連携とともに、多問題の世帯をターゲットとした暮らしを支える連携体制づくりができるようにといったところで、4題目にて研修を行いました。

自分たちの専門分野から、一側面だけでの理解に留まっているという現状があったり、先程からいろいろなご意見いただいております、事業所自体の人手不足であったり、通常のサービスに留まっていることが精一杯というような現実があります。

事業所の経営や、運営の体制が大変大きな課題となっております。

#### **金田委員)**

ケアマネジメント支援会議で、多職種連携についても意見交換ができています。

それから多職種カンファレンスで事例提供をし、同じく意見交換等をしております。

#### **田中委員)**

この前市民講演会を開催しましたが、小牧市の在宅医療・介護の連携という部分でいうと、専門職の核という部分は非常に顔が見える状態で、こうして今日の会議の場でもいろいろな意見を出せるような形がしっかりと作られているので、こういったところは今後、研修という部分の中で具体的にどのように連携を結んでいくのか、1人の利用者に対してどのような支援を行っていくのかをしっかりと行っていくという研修が必要だと思います。

また、今繋がってない機関をどのように巻き込んでいくかというところは、今後の課題だと考えています。

#### **河内委員)**

リハビリ専門職を中心とした勉強会を、3ヶ月に1回ごと定期的に行うことができました。

今後看護師や、他の職種も踏まえて、いろいろな角度から話ができるような勉強会を令和7年度はやっていくつもりですので、多職種に声掛けをして皆さんで考える勉強会をしたいと思っております。

#### **浅井会長)**

ご報告ありがとうございます。何かご質問等がありますか。

特にないようですので、先に進めさせていただきます。

続きまして、(キ)地域住民への普及啓発について、(1)より資料に記載されている内容について報告をお願いします。

#### **加藤委員)**

コロナ前はサロン等に少し参加し、講座等を歯科医師会の有志がしておりましたが、今年度はまだ出向していないのが現状です。

一応今まで有志だけという形にしておりましたが、今後は歯科医師会の会員も、ある程度講話等ができる人数を増やして対応できるようにという準備を行っておりますので、今年度以降またご依頼があればサロンの方で参加していきたいと思っております。

#### **河内委員)**

サロンへのこまき山体操や出前講座に関しては、例年通り行っております。

今後、それに対しての評価と効果判定が課題となってきておりますので、これから小牧市の方の介護認定の兼ね合い等、その辺を考察できたらいいなと思っております。

#### **金田委員)**

小牧市生き生き人生プロジェクトチームにて内容の見直しが行われ、改訂版が完成しております。

地域包括支援センターとしましては、普及啓発のための出前講座を各所で行っておりまして、今年度は今のところ7ヶ所で実施をしております。

今後も改訂されたわた史ノートの普及啓発機会を多くつくり、市民の方に広めていきたいというふうに考えております。

#### 浅井会長)

ご報告ありがとうございます。何かご質問等がありますか。

特にないようですので、先に進めさせていただきます。

最後に、在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携について報告をお願いします。

#### 増井委員)

広域連携ということで、春日井保健所と江南保健所管内の5市2町を中心に、情報交換意見交換等しております。

来年度の変更点ですが、小牧市も含めて非常に連携の取り組みが進んでいるということで、事業目的が達成されたため事業が廃止されます。来年度以降につきましては実務担当者レベルでの設定が可能になりますので、引き続き、実務担当者レベルで情報交換、意見交換等をしていけたらと思っております。

#### 浅井会長)

ご報告ありがとうございます。何かご質問等がありますか。

特にないようですので、先に進めさせていただきます。

### (4) 令和7年度小牧市在宅医療・介護連携推進事業計画案

#### 浅井会長)

事務局から説明をお願いします。

#### 事務局)

それでは議題(4) 令和7年度小牧市在宅医療・介護連携推進事業計画案について説明させていただきます。

小牧市在宅医療・介護連携サポートセンターと協議のうえ、資料4のとおり来年度の事業計画を作成しております。

こちらの内容につきましてはサポートセンターから説明をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

#### サポートセンター)

(ア) 地域の医療・介護資源の把握につきましては、3年に1度、三師会と訪問看護ステーションの情報をいただき、小牧市に提出後、こまきつながるくん連絡帳の医療とケアマネ連携一覧を更新させていただいております。

次年度は、歯科医師会の更新をさせていただきたく、在宅担当理事にご相談をさせていただく予定としております。

毎年、愛知県医師会の依頼で、在宅医療の提供と医療介護連携に関する実態調査がありますので、医師会A会員の先生方に依頼をさせていただきます。

(イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出につきましては、小牧市医師会在宅医療推進委員会に事務局として参加をさせていただいており、サポートセンター事業に承認をいただいております。小牧市在宅医療・介護連携サポートセンター会議は、奇数月の第3木曜日に日程を入れさせていただいておりますが、変更させていただくかもしれません。

定期的開催をさせていただき、多職種の方々と情報交換や、サポートセンター事業についてご意見をいただいております。

(ウ) 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進につきましては、小牧市生き

生き人生プロジェクトチーム会議は次年度より全体会を年4回とし、各部会不定期で開催する予定です。

小牧ごっくんサポート会議は偶数月の第3木曜日に行う予定です。

訪問看護ステーションとの連携としましては、情報を基に相談に対応させていただいております。

また、新規開設情報などをこまきつなぐるくん連絡帳にて情報提供させていただいております。

副科紹介支援につきましては、主治医やケアマネジャーの依頼に、副科紹介ツールを使用し継続して参ります。

(エ) 医療・介護関係者の情報共有の支援につきましては、医療と介護の連携シートの活用状況を年1回把握して参ります。

こまきつなぐるくん連絡帳は会議の開催や議事録などを添付し、連絡ツールとして活用しております。

(オ) 在宅医療・介護関係者に関する相談支援につきましては、地域包括支援センター出張相談会に同行させていただき、在宅医療介護についての啓発と相談に対応して参ります。

多職種、市民からの相談に、多職種の方々の協力をいただきながら対応して参ります。

(カ) 医療・介護関係者の研修につきましては、医療・介護勉強会では在宅医療に関する研修を年3回予定しております。

多職種連携研修会では、他の職種の理解と顔の見える関係づくりを目的とし、グループワークなどの研修会を企画して参ります。

小牧市生き生き人生プロジェクトチームにて研修会、研修教材の発信などの企画運営、また、小牧ごっくんサポートの動画資料の配信などに事務局として関わらせていただきます。

(キ) 地域住民への普及啓発につきましては、介護展への参加を予定しております。

小牧市の在宅医療介護冊子を改定しまして、普及啓発に使用して参ります。

小牧市生き生き人生プロジェクトチームの出前講座の検討や、小牧ごっくんサポートの出張勉強会などの企画運営に、事務局として関わらせていただきます。

※としまして、在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携につきましては、近隣のサポートセンターと保健所の方々と情報交換を継続して参ります。次年度は年3回行う予定です。

また、広域連携会としまして、オンラインで広域のサポートセンターとの情報交換会を年3回行って参ります。

**浅井会長)**

ご報告ありがとうございます。何かご質問等がありますか。

**大野委員)**

サポートセンター会議ですが、第3木曜日から変更がある可能性があるとのことでしたが、変更する場合はいつ頃わかりますか。

**サポートセンター)**

第2木曜日に変更というお話をいただいているので、次回3月のサポートセンター会議の際に、皆さんにお伺いしようと思っております。

**浅井会長)**

他に、何かご質問等がありますか。

特にないようですので、先に進めさせていただきます。

### 3. その他

**浅井会長)**

次第の3その他について、事務局から何かありますでしょうか。

**事務局)**

事務局より1点お願いいたします。

本日の議事録につきましてです。議事録は、作成後に委員の皆様へ送付させていただきますので、内容のご確認をお願いいたします。

**浅井会長)**

他に、何かご質問等がありますか。

**渡邊委員)**

死亡場所の統計調査について、今後どういうところで亡くなられているかというところを、しっかりと把握していくために在宅死亡率や、病院や施設で亡くなっているかというのを市として把握していただいた方が良いと思います。

現在、地域包括ケア推進課で在宅での見取り数などのアンケート調査を行い、把握をしているかと思いますが、本来死亡診断書ベースで、それを統計としてまとめていただいた方が、正確な数値が継続的に出るかと思っているのですが、その辺りは市として把握ができる体制なのか、数年前に一度質問したのですがなかなか把握できないというような回答もあったのかと思うのですが、現在はいかがでしょうか。

**事務局)**

死亡診断書につきましては他部署でやっております、現状そちらの方が可能かどうか把握できておりませんので、確認させていただきたいと思います。

**渡邊委員)**

やはりアンケート調査ですと、限界があると思います。死亡場所の統計をきちんと取っていただいて、公表していくことが小牧市の在宅死亡率がどれぐらいなのかということの把握に繋がると思います。

**浅井会長)**

他に、何かご質問等がありますか。

特にないようですので、進行を事務局へお返しします。

**事務局)**

浅井会長ありがとうございました。

また、委員の皆さまにおかれましても長時間にわたってご審議をいただきまして誠にありがとうございました。

それでは以上をもちまして令和6年度第1回小牧市在宅医療・介護連携推進協議会を閉会とさせていただきます。

なお、この時期まだまだ日の入りが早い季節です。

夕方になりますと非常に歩行者等、見にくくなりますので、くれぐれも交通安全等にお気をつけいただきまして、交通事故抑止にご協力をお願いいたします。

それでは本日は誠にありがとうございました。

#### 4. 閉会